

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	17 - デ学 - 9
-----------------	-------------

平成17年度配分 研究成果の概要

研究名	デザインと情報リテラシー デジタルディバイドへのデザインによる対応				
配分を受けた特別研究費	デザイン学部長 特別研究費				500千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	デザイン学部	生産造形学科	教授	河原林 桂一郎	全体計画推進 コンセプト立案 仮説構築他
共同研究者	デザイン学部	生産造形学科	教授	黒田 宏治	地域問題の検討 仮説 FS 他
	デザイン学部		技術員	川村 恵美	CGによる検討他
	研究協力者			高山 靖子	資料・データ分析 仮説システム化他
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 号 ( 年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: 報告書		発表日 (発表 予定日)	平成18年5月15日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

情報化時代の弱者が新たな社会問題となるといわれている。この問題の実態を把握すると同時にデザインによるハード及びソフト両面での解決を目指した研究を行う。

ブロードバンド化やデジタル機器の普及は、時空間の制約を解消し、地方の地理的不利益や情報不足を飛躍的に解決しつつある。先年携帯電話の普及が固定電話を上回ったが、逆に公衆電話設置数は減少している。こうしたハードである機器やそのソフトであるサービスやコンテンツの恩恵を得にくい高齢者や外国人を中心とした生活者の情報リテラシーの向上を目指す。

(研究の実施方法等)

Phase-1

1. 浜松市における情報化及び情報利用の現状を調査、分析  
高齢者にとって日常生活に必要な情報、欲しい情報やサービスのニーズ抽出のためヒアリング調査を実施。(先行ヒアリング)
2. 情報端末とサービスを仮説提案し、アンケート調査によりヒアリングを行い検証  
情報機器及びサービス利用意向調査のための本ヒアリング調査を実施(サンプル数 30)

Phase-2

1. 本ヒアリング・仮説検証ヒアリングよりコンセプトの構築と確認  
情報機器利用率、取得情報内容、要求情報内容、情報の経済的価値などのニーズを抽出
2. 仮説よりシステム構築化  
街中情報ステーション、自宅情報ステーション、セルフコントロール情報公開ネットワークサービスを学生、高齢者、在留外国人を対象にシステムとして提案

(得られた成果等)

最終報告書(別添)の抜粋

先行ヒアリング(3名)

高齢者でも気軽に使えるPDAのニーズと携帯電話、インターネット利用のコミュニティ参加の有用性  
情報発信とコミュニケーションの可能性

能動で自主的 → → インタラクティブ → → 情報発信、活動拡大  
受動で自主的 → → 生活便利 → → 情報共有 → → → 情報取得

本ヒアリング(30名)

自己実現欲求、社会的欲求、生理的欲求他の欲求と要求情報から防犯・防災情報、医療機関情報を優先要望であることを確認

情報の取得方法と取得情報

高齢者、学生、外国人が情報のエアポケットに陥りやすいため、必須と必要情報の取得が必要  
街中ではスタンドアロン型、モバイル型、自宅ではデスクトップ又はノートブックによる情報ステーションの概念を構築

セルフコントロール情報公開ネットワークサービスの提案

セキュリティと適度のプライバシーを両立させるためプロフィール情報を階層化し、目的別に運用  
リアル&バーチャルコミュニケーション

世帯間交流を促進させるリアルなコミュニケーションをネットワークに組み込むことにより地域交流ソリューションを実現